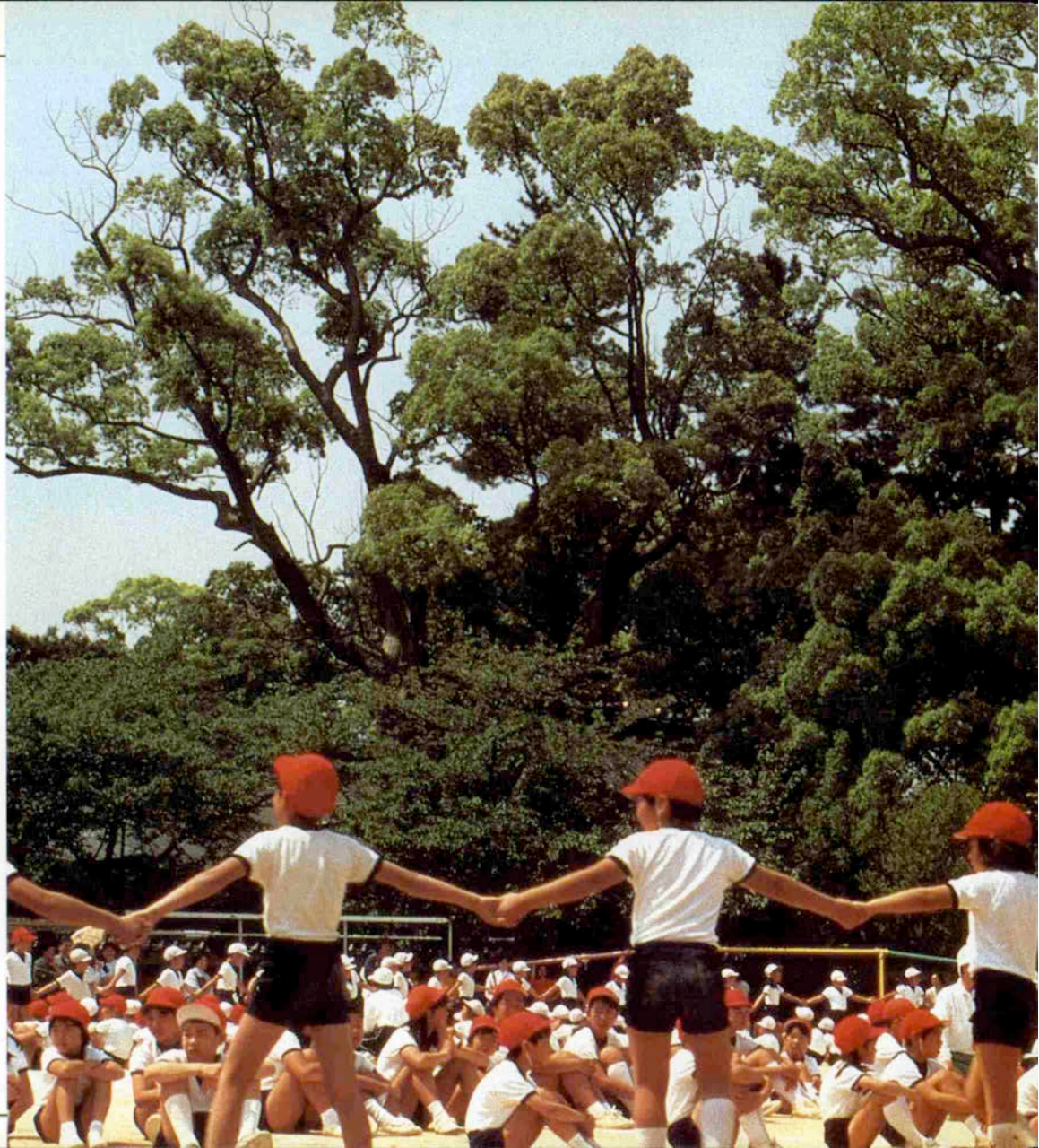


Photo Masao Kobayashi

神戸の名木

長田神社のくすのき



所在地——長田区长田町三丁目
□市バス長田神社前

名木と言われるなかでも神木の本格派。
八〇〇年の昔から大衆と縁故の深いこの樟は、
今も移り行く世代をじっと見つめている。



旧居留地散歩①

PRODUCED BY KOBE DAIMARU



GENIUS GALLERY

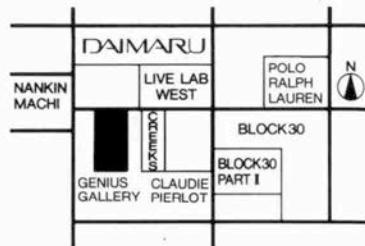
ジーニアス・ギャラリー

＜水曜定休＞

神戸市中央区西町33／11:00AM～8:00PM

＜ジーニアス・カフェのみ 10:00AM～8:00PM＞

●ジーニアス・ギャラリーへのお問い合わせは
大丸神戸店(078)331-8121まで



GENIUS CAFE

ジーニアス・カフェ

きらきら光る初夏の風に、神戸の街が一年じゅうでいちばん美しいといわれる5月。大丸浜側、ジーニアス・ギャラリー1階のジーニアス・カフェでの、ひとときはいかがですか。ジーニアス・ギャラリーのデザイナー、アラン・カレの「パリのスノッブなカフェをそのまま神戸の皆さんに楽しんでもらいたい。」という熱望により誕生した、おしゃれなカフェ。ウインドウ越しのオープンな雰囲気と色調がきわめてパリの的で快適。バーカウンターで、軽くアルコールドリンクを気どってみるのも、さりげなくおしゃれです。

●ランチタイム(日曜日を除く)

11:30AM~2:30PM

サンドウィッチ・スープ・エスプレッソ…800円

マカロニグラタン・サラダ・パン・エスプレッソ…900円

スフレ風オムレツ・サラダ・パン・エスプレッソ 1,000円

●日替わりクレープセット(日曜日を除く)

3:00PM~7:00PM

クレープ・コーヒー又は紅茶 700円~900円



Kir キール…700円

カシスに白ワインを加えた
ポピュラーなカクテルです。



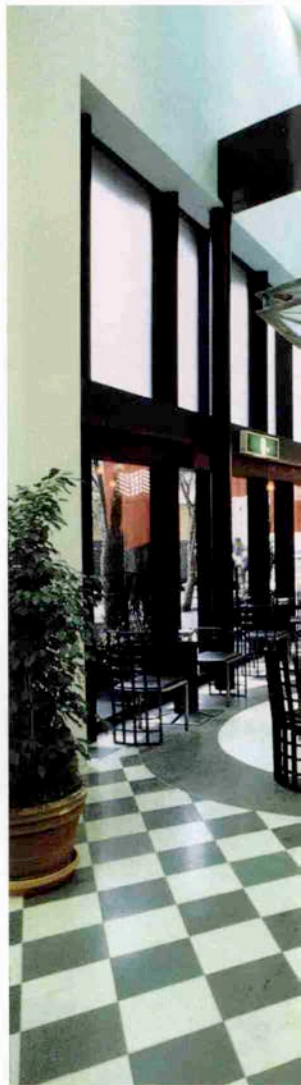
Fruits フリュイ…600円

カスタードクリームをクレープで包みこみました。
爽やかなフルーツを一緒にお召しあがりください。

Café Cappuccino カフェ カプチーノ…500円

泡立てたミルクにエスプレッソ/コーヒーを加え
シナモンパウダーで風味を出したコーヒーです。

●表示価格の3%を消費税として別途頂いたします。

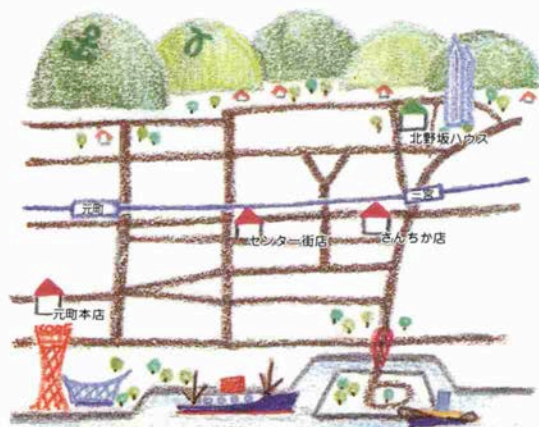




青く澄んだ海の色

白い雲と緑の山々

K O B E の色はファミリアの色



Fashions for Babies and Children

ファミリア

本 社：神戸市中央区西町36 ☎078(321)0345代
東京支社：東京都新宿区新宿5-17-5 ☎03(3209)6677代

'91秋の御婚礼衣裳大展示会

- と き 7月28日(日)
AM10時～PM 5 時
- ところ 神戸ポートピアホテル
(ポートライナー市民広場駅下車)
大輪田の間(南館1F)

花嫁は
ロールスロイスに
乗って



大丸前
つや衣裳店

神戸市中央区三宮町3丁目1-9 ☎078(321) 0360代

神戸ポートピアホテル衣裳室	
ピアンカスボーザ	☎ (078) 302-3378
シュバリエ	☎ (078) 302-1051
神戸風月堂88衣裳部	☎ (078) 302-5555
ホテルゴーフルリッツ衣裳部	☎ (078) 303-5555
新神戸オリエンタルホテル衣裳室	
アソルティ	☎ (078) 262-2908
橋公会館衣裳室	☎ (078) 382-0160
そごうブライダルサークル	☎ (078) 221-4181

衣裳をご利用の方にクラシックカー(4台)での送迎サービスを行っています。詳細はつや衣裳店(本店)まで。



ハ
フ
ー
ア
ト
ツ
・
シ
コ
ヨ
レ
ン
ク
パ
シ
ー
ヨ
ク
ン

Inter-Continental
Lucas-Cartton
* Céline
Guerlain
* Nina Ricci
Liz
Jean Patou
Cartier Poucheron
* Cartier

3, rue Castiglione. 1^{er} PRINCE
9, place Madeleine. 8^{me} prin
30, av. Montaigne. 8^{me}
68, av. des Champs-Elysée
29, av. George V. 8^{me}
42, av. Kleber. 16^{me}
7, rue St. Florentin. 1^{er}
26, place Vendôme. 1^{er}
13, rue de la Paix. 2^{me}

K. MIKAMI

休暇の意義はそこにあるのだから、
いろいろな場所を足で歩いて、
おいしいものをいっぱい食べて、
海で泳いだり夜はダンスをしたり、
歌はうたったり、
いちはんの叔母は、心の光を

休暇の意義はそこにあるのだから、
いろいろな場所を足で歩いて、
おいしいものをいっぱい食べて、
海で泳いだり夜はダンスをしたり、
歌はうたったり、
いちはんの叔母は、心の光を

休暇の意義はそこにあるのだから、
いろいろな場所を足で歩いて、
おいしいものをいっぱい食べて、
海で泳いだり夜はダンスをしたり、
歌はうたったり、
いちはんの叔母は、心の光を

休暇の意義はそこにあるのだから、
いろいろな場所を足で歩いて、
おいしいものをいっぱい食べて、
海で泳いだり夜はダンスをしたり、
歌はうたったり、
いちはんの叔母は、心の光を

メリーヒル
ゲルラン
ボンフカヤ
シス
ルーブル・ワシントン
ダイアナ
ミッシェル・クラン
クロードレマ
タカノ
ココ山岡

三愛
キーンディグ・マ
メイソンダグ
フォーセット
バートン
ラッキー
ハニー・ハリス
イーストボーイ
ベイトン・ダグ
フェアリー
サンクス・クラブ
リップスター
ベイトン・ダグ
グレイ
ハルサグ
ロリス・クレモン
アラブ・ダグ

FASHION PARK

神戸・三宮さんプラザ、センタープラザ3F
営業時間 am11:00 - pm8:00 PHONE 078-332-1698

第3月曜・定休日



これは神戸を愛する人々の雑誌です
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる
 神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
 これは神戸っ子の心の手帖です

5月号目次 ● 1991・361

- 表紙／(故)小磯良平名作シリーズ／
 セカンドカバー／西村功
 11 神戸っ子91／西尾智香・西内脩
 14 ある集い／ブラジル文化交流会・プリンセスサンパ
 チーム・月刊神戸っ子サンパチーム
 17 コウベスナップ／イギリス美術展・ルイス・ティファニー展
 18 30周年記念パーティを祝って
 20 神戸の名木／小林政夫
 31 私の意見／土井正三
 33 ポエム・ド・コウベ(5月)詩・小林重樹 カット・
 石坂春生
 34 随想二題／川口 陽之・武田 芳一
 36 地域文化論／水谷頼介
 38 30周年記念エッセイ／文・絵／中西 勝
 40 れんさいエッセイ／文・安水 稔和／絵 中西 勝
 42 座談会 日中友好ファッションショー
 54 観光特集／北野・旧居留地・六甲山・ポートアイラ
 ンド・メリケンパーク・南京町・須磨・瀬酒蔵・有馬
 65 経済ポケットジャーナル
 66 第21回神戸まつりがやって来
 76 ファッションスポット
 84 神戸のお嬢さん／大浦 千恵・王 丹玉
 86 5月に小磯良平遺作展
 114 ひょうごウォーク／ひょうごたすけあい運動／高橋孟
 113 コーヒーブレイク
 114 動物園飼育日記／ゾウの動物園史(19)／亀井一成
 118 プロフェッサーの研究室／岡田 淳
 120 ネオ・モダメルヘン／篠原 順子
 122 月刊神戸っ子30周年記念パーティより
 126 話題のひろば／ラルフローレン・神戸J.C
 128 Kobe Topics
 132 神戸を福祉の町に／橋本 明
 134 有馬歳時記／有馬太鼓
 136 神戸百店会だより
 138 モダンカルチャー
 130 シネマ試写室／シラノ・ド・ベルジュラック／淀川
 長治
 142 びっといん
 144 ポケットジャーナル
 147 神戸っ子倶楽部会員情報
 148 るぼるたーじゅ神戸／文・有井基
 152 第15回神戸文学賞佳作作品発表
 連載小説「星の光 月の位置」(第2回)／作・大迫智
 志郎 絵・田中一好
 157 小磯良平名作表紙絵シリーズ(5)／荒尾親成
 174 新連載エッセイ「北野物語」／文・宮本豊子・写真
 ・中村年延
 176 海・船・港／かどもと みのる
 177 ポートウォッチング(神戸港を考える会)
 目次作品／新谷瑤紀
 カメラ・米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田篤志

はるかインドから英国を経て、明治初年神戸
外国人居留地に至ったカレー文化は、日本の
米と神戸の牛肉と出会ってみごとに開花。
今や一世紀を超えるこのカレー文化を正しく
次の世代へ伝えるために、先人達の足跡をた
どり「家例三ヶ条」を守って味の温故知新に努
めるとともに現代のライフスタイルに合った
新しいカレーを提案します。

古きをたずね、新しきをつくる、
温故知新の「カレー元年」
御影の地に
オープンします。

伝承文化

北野異人館



神戸外国人居留地

1868～1899

おかげさまで創立20周年

20th
Anniversary
Rock Field

長年御影ガストロノミをご利用頂き、
本当にありがとうございました。
新しく生まれ変わる「カレー元年」を
よろしくお願い致します。

1991・6・8

オープン

伝承製法 **カレー元年** 神戸謹製

神戸市東灘区
御影山手1丁目
御影ガーデンシティ1F

家例三ヶ条

医食同源

自然尊重



HIGH QUALITY DELICATESSEN

株式会社 **ロック・フィールド**

本 社/〒650 神戸市中央区明石町48番地 神戸ダイヤモンドビル5F
TEL(078)331-1021(代表)



スカート
¥11,000
帽子
¥5,900

ジャンパー ¥11,000

パンツ
¥9,800

ショートパンツ
¥6,800

夏だから
マドラスチェック



HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22/SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651
 SANNOMIYA MAC
 THE BLAZER SHOP MAC
 DOLCE MAC
 FESTA MAC
 BENETTON MAC
 SUNVIOLA MAC
 PLENTY MAC
 SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895
 TOR-ROAD 078-391-0896
 SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141
 HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738
 HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333
 TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830
 SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088

MORI
Pearls
Co., Ltd.



"Fruity Elegance"

森真珠株式会社

本社／〒651神戸市中央区二宮町1丁目4-15

☎(078)241-2125(代)

ショールーム／〒651神戸市中央区二宮町1丁目4-15

(年中無休) 2F ☎(078)222-5881(代) 駐車場有り

オーパル店／〒650神戸市中央区北野町1丁目J R新神戸駅口

(年中無休) 3F ☎(078)262-2858(代) 262-2859

東京支店・大阪支店

□私の意見

熱い戦いを ご期待下さい

土井 正三

△オリックス・ブルーウェーブ監督△



既に皆様ご承知のように、我がオリックス・ブルーウェーブは、今季よりフランチャイズを神戸に移しました。ニッパネームも新しくなり、神戸の市民球団として心機一転、私個人としましてはルーキー監督として、新鮮な気持ちでゲームに臨みたいと思っております。

神戸という街は私にとって、小学校から高校まで育てていただいた思い出深いところで、非常に親しみを持っております。大学生になってから東京に出まして、およそ三十年が経ちましたが、久しぶりに帰ってみたいです、あちらこちらが様変わりしており、思っていた以上にいい街なんだなあ、と再認識させられました。

雄々しい六甲山の山並も、様々な客船で賑わう神戸港も、そこに生活している人達のセンスの良さを窺わせる街も、とても心地よく感じられました。

ブルーウェーブは、球場に駆けつけて下さった方のみならず、応援して下さいの総てのファンの方のためにも、決して最後まで諦めず、そして、ガッツあるプレーを皆様にお見せしたいと思っております。

チームの看板は、なんといってもブルーサンダーと異名をとる強力打線です。主砲の石嶺を始め、ブーマー、藤井、高橋智と、バワフルなバッティングが売り物の選手たちは、今年も、夜空にたくさんの火花を打ち上げてくれることでしょう。地味ながら、山森、小川らは、華麗な守備を見せてくれることと思います。松永、本西らの走塁も見逃せません。また、忘れてはいけないのが投手陣です。佐藤義、星野の両エースを始め、円熟味を増してきた山沖、伊藤敦、そして大学ナンバーワン・長谷川の加入により、ますます充実してまいりました。

今季も、チームが一丸となって、精一杯頑張るつもりです。これこそ「プロ」だと言えるプレーで、皆様を魅了したいと思っております。

我々にとっては、ファンの皆様の熱いご声援こそがエネルギーになります。優勝を目標に頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。

Juchheim's
Die Patisserie des Meisters
 Made in Frankfurt am Main
 Seit 1881

ゆとりの「時」をひろげる
 白の気品あるケーキ
フランクフルタークランツ

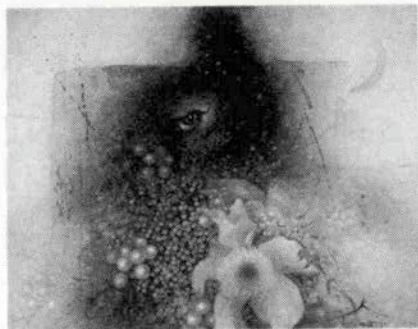


しっとり焼き上げたスポンジケーキに
 バタークリームをサンドして
 アーモンドシュガーで上品に仕上げました。

淡雪のような口どけの良さと
 純白の美しさが涼感を誘う小粋な贈り物です。
 あなたの大切な方々へ、ひと足早い夏のおいしさを
 ゆとりある時と共にお届けください。

ユ・ハイム

KAKINUMA GALLERY



午後の情景
 (油絵)

田中美穂・作
 二紀会同人

霧に包まれた中の幻想。静かに、まどろむ
 時の流れのなかで、緊迫感を残す白日夢。
 キャンバスの中に、自分の気持ちを何度も
 何度も重ねてゆきます。絵と心が融け合うと
 スッと気持ちが軽くなります。

(柿沼産婦人科に展示 5 / 1 ~ 5 / 31)

芦屋 柿沼産婦人科

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り

☎ (0797) 31-1234 (FAX兼用)

月曜～土曜まで診療しています。木曜・土曜は午前のみ。

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

光

小林重樹

カット／石阪春生

梢や

葉のおもてで

いくどもさえぎられ

濾過された

森の底にとどくのは

澄んだ

光

底へ沈んで行くほど

濃くなってゆく

純粹

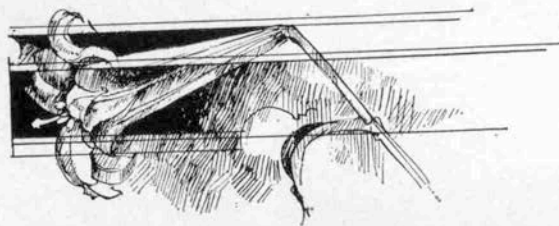
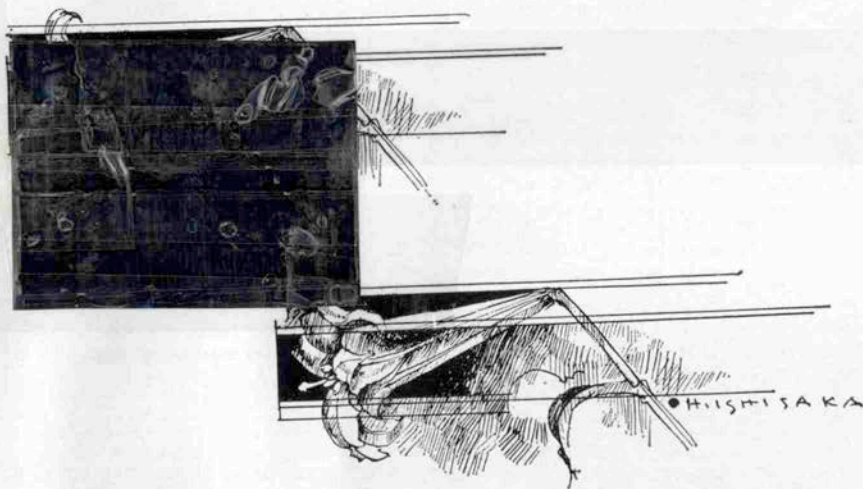
その深い底に

生まれるもの

ひかる苔

オヒシバの芽

さみしさや 夢



随想 二題



SIGHTSEEING KOBE 2.
兵庫県立近代美術館（灘区）

思い出の上海

武田 芳一

（作家）



上海はわたしにとっては、青春の街であり、思い出の一ぱい残る都会である。

今度、K・F・Mが、上海、杭州で、日中友好のためにフアツション・ショーをするので、その応援をかねるツアーを募った。わたしも、O女やF女から誘いをうけ加わった。

このフアツション・ショーは上海も杭州も大受け大成功だったことは、その当事者が書くだろうから、わたしはやめておく。

私は過去に十年も上海には住んだので、地語はよく通ずると思われ、私も何か役立ともあろうと思ひ参加したが、さて、現地に立つと、単語の少しは覚えていたが、何か訊いても、大体は殆ど忘れていることが多い。役立など少

し不安であった。五十年の歳月は忘却の海に消失した言葉など浮んでこないと思っていたが、相手から何か親しい言葉をかけられると、忘れていた単語が何の脈絡もなしに、ひょっと飛び出してくるので、我ながらびっくりすることがよくあった。しかし、与えられた言葉が全部受け答えができたわけではない。分らない語も多々あった。その時は、違った語を多く喋っていると、知らぬまにその内容が了解の思いになるのは双方であった。

フアツション・ショーは上海で二回、杭州で一回のショーは、みな観衆を魅了して息を呑む思いで見入っていた。楽屋では言語不通の笑話や失策などは少しあっても、ショーは大盛会と大成功は否めなかった。

わたしの上海語は杭州でよく通じた。しかし、同じ上海語でも、杭州人の上海語は少し異っていた。関西弁が京都、大阪、神戸と

南京路の街並



一寸異っているのと同じくらいで、他所から聞けば皆同じ関西弁である。しかし、住民がきくと三市の語音はみな異っているのと同じで、他国人からは同じ上海語に聞こえる。その為か否かは知らないが、杭州人と上海人は反目競合がある。私は蝸牛角上の争いと茶化した。が事実は事実である。

杭州ナンバーの車は日中に上海に入る事と、上海ナンバーの同じく杭州市に入れないのである。但し、夜七時から翌る七時までは自由である。この自由時間の制定は、人民の受皿側をいかに配慮しているかが分る。私はこの社会主

義国の制定が、人民の心を配慮しているかが推察できる。日本の制定はいつもお上意識で制定する、人民側の配慮など破片もない。それから未来性の配慮でもある。お上意識とは中央官僚の優越性と地方への侮蔑性である。彼らにあるのは目先の利害勘定が、彼らの基本意識である。百年の未来性も、十年先の国の利害さえも、考えないように思える。しかし、私には野党側にも票集めのエゴしかみえない。

孝行の言葉は 東洋だけ

川口 陽之

▲歴史家・登山家▼



五年前の還暦で、母校（神戸商大）の後輩に川口自動車の社長を譲った私は、この五年間に、ヨーロッパや、ネパールヒマラヤ、アフリカのキリマンジャロ

南米のアコンカグア、ボルネオのキナバル、ニュージーランドのマウントクックなどの辺地の高山ばかり行っている。

そこで気づいたことは、老人になった親を、子供が面倒をみていないことである。

英語だけでなく、ドイツ語、フランス語、スペイン語などには、「孝行」と云う言葉はない。

あえて英語で「孝行」をさがせば「Duty」であるが、これは税金にも使っている。

「孝行」は納税程度である。

ところが、「儒教」が入っていた中国東北区（旧満州）の白頭山や、韓国の雪岳山、玉山（旧新高山）などに行ったら、「孝行」が金科玉条になっていて、老父母の面倒をみるために自分の子供の養育まで犠牲にしているような面があった。

日本古来の「神道」や、七世紀からの「仏教」には、老後は子供に迷惑を掛けることなく頓死する「ボツクリ信仰」だけであった。

老いた親の面倒を子供がみる動物や鳥類は全然存在しない。

ローマ帝国が、老いた親鳥に餌を運ぶ子鳥の伝説をもつコウノ鳥にあやかって、親孝行を強制する法律をつくったが、「孝行」と云う言葉がなかったので「コウノ鳥法」と呼んでいた。

ところが、このコウノ鳥の話はウソであることが判り、すぐに廃止している。

「生物は子孫を残すのが使命」という真理が優先したのである。

植物でも、ウバメガシやブナは自分の種からが発芽して苗木になり、成木になるまでは、親木は枝を大きく張って、他種が入り込まないように頑張っているが、苗木が一人前になると、親木は枯死してしまう。だから、ウバメガシ林やブナ林は、何千年も同じ植生を保っているのである。

子育ての終わった老人は「生」に執着せずに、あっさり頓死することが真理である。

私は、ハードな山登りで肉体を酷使して使い切り、七十歳を越せば頓死することに決めている。

子供や、若い者のために、いくら膨大な教育や福祉予算を計上してもよいが、老人福祉のための予算はどんどん削るべきである。

でない、財政破綻で日本は滅亡する。

★著書紹介★

垂水郷土史



城下町安中と新島襄

水谷 額介△都市計画家・建築家▽

安中は未知の町だった。東京生れなのに、北関東は、どうもなじみがうすい。数年前に、「軽井沢の別荘史」(矢野実著)の現場を著者と訪ねる会に出席して、途上、かつての絹の道だった富岡製糸工場や渋沢栄一出生地の深谷あたりを通過したのだが、その時訪ねた修理中の妙義神社の石垣に、関東にもこんなものがあるのかと驚いた。たぐらひのすくない触れあいだった。

今回は、昨年に神戸で開いた全国町並保存連盟の幹事会の夜に、是非とお願ひして、「安中の自然と文化を学ぶ会」が実現してくだ

さった訪問だった。

碓氷関所跡、坂本、松井田といった上州路—中山道の宿場町めぐりもふくめて、江戸時代、板倉勝明侯の城下町は、なかなか見所が豊富である。この小さな城下町にも現代の都市計画はいろいろな至りをもたらしていて、都市計画街路の街なかの通過にあわせて保存修理された武家屋敷群奉行役宅猪狩家長屋は、荒っぽい藁屋根耳きで素朴で力強い。

そして、関西派から見ると京都の新島襄がなぜこの西上州の出身なのか、それでここにいまなお「新島学園」という存在も、興味深かった。新島襄は、函館でニコライと会い英語を学び、一八六四年アメリカへ密航し、ボストンへ着き、一八七四年横浜に帰国、安中へ戻っている。

神戸の宣教師から呼ばれて、京都の山本覚馬(妹が後の襄夫人八重)に会い土地の寄付をうけて一八七五年(明治八年)同志としての英学校を発足させている。

新島邸も、昭和三十九年に敷地の位置をすこしかえて復元、見学できる。ここでは、一八九〇年(明治二十三年)、新島襄が永眠されてから百年になるのを記念して刊行

会が発行した書物「新島襄」が無料で配布されている。

日本基督教団安中教会の礼拝堂は、新島襄召天三〇周年を記念して建てられたもので、正式には「新島襄記念会堂」という。壁体は大谷石造りで、帝国ホテル(大正一二年竣工)の五年前(大正七年八月着工)八年八月竣工、設計古橋柳太郎)だと評価するむきもある。建築物は、質素な材料だがきわめていいに造られている。堂内には、襄の影響をうけた湯浅治郎や「非戦」をとねた柏木義円らの肖像がかざられている。

夕暮の西日をあびた記念会堂のあちこちをゆっくりと眺めていると、自称・町並み旅絵師・片寄秀文君と出くわした。彼は、ひょっこりと、岩波版「スケッチ 全国町並み見学」をとりだして、ここへはすでに訪ねていて、この書に画いてあるのだよ、と見せてくれた。さすがだね、とうなずく。

安中から帰って、すぐ、同志社女子中学校・高等学校静和館が壊されそうだというアピールをうけた。安中での新島襄を奉信する人々にも呼びかけて応援の力になってもらった、と答えた。現在の同志社は新島襄に触れてもらいたくない—学校の将来のためには、ミッションスクールでは得策でないという気分があるそうだという解説をうけた。「本当かしら」への答はまだつかないが、安中とは対照的にこちらの建物が壊されてしまったことだけは確かだ。

新島襄記念会堂

□第16回

神戸文学賞作品募集

本誌は昭和51年に創刊15周年記念として神戸文学賞・神戸女流文学賞を創設いたしました。これまで左記の通りに各賞の受賞作が決定しておりますが、第11回の募集より、さらに質の向上をはかるため「神戸文学賞」の名称に統一、受賞作を一作品として、現在、広く作品を募集いたしております。

。第十一回神戸文学賞「瞑父記」(田能千世子―茨木市)

(この回より神戸文学賞と同女流文学賞を一本化)

。第十二回神戸文学賞「夢食い魚のブルーグッドバイ」(釜谷かおる―高砂市)

。第十三回神戸文学賞「お夏」(門田露―西宮市)

。第十四回神戸文学賞「風車の音はいらない」(上田三洋子―長岡京市)

。第十五回神戸文学賞「渴き」(刀禰喜美子―大阪市)

ここに第16回文学賞を公募するにあたり、多数の意欲的御投稿をお願いするとともに清新かつ強力な作品の出現を期待する次第です。

△募集要項▽

一、応募作品は小説とし、応募資格は問いません。ただし応募作品数は一篇に限ります。

一、応募作品は未発表原稿、または締切以前、一年未満に発行の同人誌に掲載したものに限りです。

一、原稿枚数は四百字詰60〜70枚。

一、原稿には住所、本名(筆名)、年齢、職業、略歴を明記し、四百字程度の作品梗概をつけて下さい。

一、締切りは八月三十一日(当日消印有効)

一、受賞作品発表は本誌一九九二年新年号誌上で、同号より作品を掲載します。

一、原稿の返却、選考経過などに関する問い合わせには応じかねます。

一、受賞作品の著作権は本誌に属します。

一、受賞作品には副賞として賞金三拾万円が贈られます。

一、原稿の送り先、お問い合わせは、神戸市中央区東町一三の一 大神ビル九階 月刊神戸っ子「神戸文学賞係」まで。

電話〇七八―三三一―二二四六

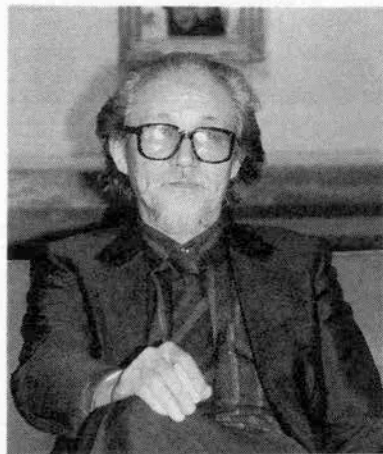
△選考委員▽杜山 悠・武田 芳一・鄭 承博

主催／月刊神戸っ子

お祭り騒ぎの

誌面を

中西 勝 〈画家・絵と文〉



「神戸っ子」とは、その前身である「元町」という本の創刊前からお付き合ひさせていただいている。その頃、小泉さんは国際会館の下でお茶屋さんをしておられ、行きつけにしていたたこ焼屋でよくご一緒したものだ。

ある日、かの有名なたこの壺に立ち寄ったときに小泉さんから、

「中西さん、『センチター』という本があるでしょ。」

僕も「元町」という本を作りたいんです」

と、相談をもちかけられた。

いいアイデアだと思ったが、同人誌でも三カ月もてばいい方だということを知っていたので、

「三カ月はどんなことがあっても続けなさい。そのためには、内容のある同人誌と同じように画家や作家に金を出して表紙やカット、文章を書いて

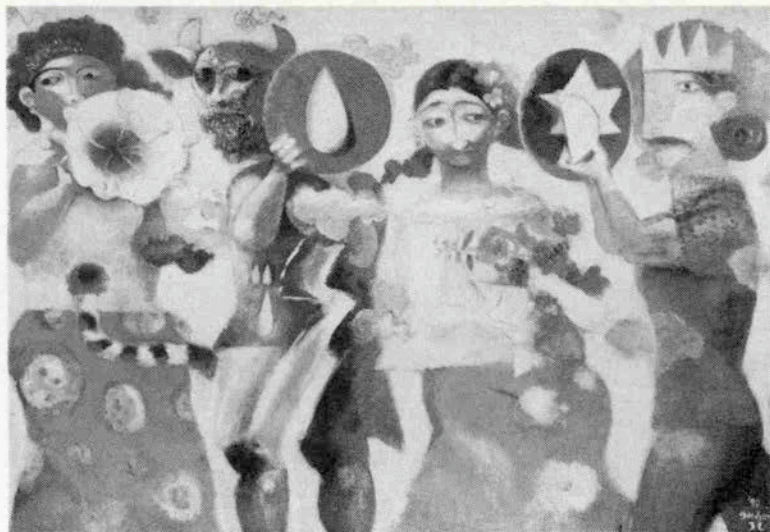
戴く様な事もあっていいですね」と提案した。

そして創刊。当初は、小泉さんはお茶屋を続けながら本を出しておられたので、私は店の奥でよくカットを描いたものだ。江戸川乱歩賞をとったばかりの陳（舜臣）さんにお酒等をよくおごってもらったことも思い出される。

当時は、ある意味で神戸の黎明時代だったように思う。今のように豊かな時代ではなかった。今のように大きな都会では決してなかった。しかし、とても可能性を秘めた面白い時代ではなかったろうか。そんなときに、初め「元町」、そして「神戸っ子」は生まれたのだ。

それから三十年。たくさんのスポンサーにも恵まれ、ここまで大きくなったということは本当に驚くべきことである。また、毎月の本の編集だけでなく数々のイベントも手がけてきた。毎年恒例となった新年会、そして世界の酒祭り、などなど。

最近では、小泉編集長と神戸ファッションモデル



スト(KFM)の藤本ハルミ会長が中心となって上海・杭州でファッションショーを開き、大成功をおさめたと伺っている。「神戸の道はシルクロードにつづく」ではないが、今まで以上に国際的視野を持った「神戸っ子」であってほしい。

その一方で、神戸に住んでいても今までに気が付かなかった我々の周辺の喜びを、「神戸っ子」が気付かせてくれなければならない。編集部による企画だけでなく、街で起こった面白い情報を外部の人間から集め、同人新聞というようなページをつくってみてはいかがだろうか。みんなでお祭り騒ぎをしているようなページを。

例えば、一週間は月曜日から日曜日までの七日間である。これを最初につくり出した人には、月曜日は月の祭りの日であり、火曜日は火の祭りの日であるというイメージを持っていた筈である。ところが、我々はそのことを忘れてしまった、「今日は月曜か。ああ火曜か」という具合に、何らの感動も持ち合わせなくなってしまった。原始時代の太陽崇拜を意味する土器も、西洋文明によって現在は単なるデザインに過ぎなくなってしまった。

「神戸っ子」は、このようになってはいけない。常に新鮮なものを提供し、原点を呼びさましてくれるような存在であってほしい。そうすることによって、神戸が持っている創造性を伸ばしていくのは「神戸っ子」だからである。「神戸っ子」は作家に原稿を載いている。そして作家は「神戸っ子」に原稿を掲載して載いているという風なお互いの謙虚さが、神戸をますます美しくしていくのである。

随想

旅のかたち

〈18〉

春の谷

安水稔和

絵／中西勝

昨年春に和山の宿でもらってきて鉢に植えていたスイセンが、水々しい青い葉をのぼした。ところが花が咲かない。今ごろは、鳥甲山を見上げる和山の斜面は、スイセンの花とフキノトウでいっぱいだろうな。昨年は三月の末に出かけたが、今年は仕事に追われて気がつくともう四月だ。よし、今年も行ってみようか。

思い立って夜に逆巻の宿に電話を入れて、次の朝、出かけた。

私にはどうも同じ場所へ何度も出かける癖があるようだ。能登へ、そして佐渡へ何度も出かけた。三河の花祭に数年つづけて年の暮になると出かけて行った。東北へ菅江真澄を追いかけて一年に何度か何年も通った。

春になると室津へよく出かけた。それがいつも梅の盛りではなくて、花の散ったあとを見はからったように出かけた。花と花の間にわざわざ何を見に行くのかと言われもしたが、毎年重ねて出かけてみると、これがなかなかいいのだ。毎年同じようでも、どこか違っていて、おもしろい。梅が散り残っていたり、すっかり散りはてていたり、桜がちらと開いていた。足もとにスイセンが咲き乱れていて、高いところにツバキの花が並んでい

て。人がいなくて、犬がいて。人がいなくて、子どもの声がして。風に吹かれて斜面をくだる。日だまりに腰をおろす。海を見たり、空を見たり、目を閉じたり。あ、と言ってみたり。おお、と言ってみたり。いかにも気ままな時間である。

鈴木牧之を追いかけてはじめて秋山郷へ出かけたのは、一昨年の夏だった。これはいつものように尾を引くな。思ったとおり、昨年の春に出かけていって、この春にまた出かけていって。

飯山線に乗り継いで一時間もすると、線路の脇に、家の蔭に雪が残っているのに気づく。大きな木の下枝が折れている。小さな木が折れている。やがて一面の雪の原。津南で降りて、タクシーを走らせると、昨年は雪のなかった田畑がすっぽりと雪をかぶっている。谷の口の、昨年カタクリの花を見つけた崖も雪である。宿へ登っていく入口の橋のたもとにも雪が残っていて、昨年フキノトウをどっきり摘んだ枯草の斜面も、今は雪でおおわれている。登り道の途中、道にかぶさるように谷へのびた大樹の幹が折れて、ない。裂けた跡が、痛々しく鮮やか。崖下をのぞくと、チェンソーでいくつにも切断されて雪のなかに落されていた。昨年と同じ宿の、昨年と同じ部屋に泊まる。窓に



向かって座る。谷向うの雪の斜面を見る。昨年の記憶の斜面と重ねてみる。ななめに立つ木の一本一本を見る。見えなくなつて、なお見る。漂ういのちの気配。押し包む青い山の闇。夕食にクマが出た。昨年同様に。同宿は他に男性一人だけ。

次の日。谷の奥に入る。バスに乗ると、おばさんが一人乗っていて、入れかわりのようにすぐ降りて、バスは貸し切り。小赤沢で下車。バス停からすこし入った木造の大きな建物に入っている。民俗資料館という古い看板があがっている。元小学校。一階は現在保育所。若い人が、保育さんだろう、ずっとあらわれて、こんなにちわと挨拶交わして、すつといなくなる。坂道を汗ばみながらどんだんのぼって行って、木造りの大きな建物にたどりついて、泥のように赤い湯にゆっくり入る。食堂では、土地のおばあさんが六人、持参の菓子果物でおしゃべり。こちらは、ビール。窓の外の鳥甲山のまぶしい雪の肌をぼんやり眺める。ほんとにいい天気。目が痛くなる。目を閉じる。背中のテレビは決勝戦、広陵のサヨナラ勝ち。今日の宿は上野原。客は他にいないとか。部屋の窓から鳥甲山が間近に見えるだろう。夜半、カモシカがのぞくかしら。さらに谷の奥の和山の、スイセンとフキノトウのあの斜面は、今年はまだ雪に埋もれているだろうな。